

〈連載〉

# 救急事例報告

— Case report 03 —

## 消化器疾患と 産科・婦人科疾患 の鑑別2症例



札幌市消防局

角谷 洸太郎 (すみにに・こうたろう)

北海道上川郡当麻町出身。平成23年4月1日消防士拝命。趣味は映画鑑賞。

### はじめに

札幌市では、平成16年に「搬送先医療機関の選定要領及び基準」を定めていたが、平成21年の消防法の一部を改正する法律の施行に伴い、北海道救急業務高度化推進協議会（北海道における都道府県メディカルコントロール協議会の組織名称）にて「傷病者の搬送及び受け入れの実施に関する基準」が策定されたことから、その内容を踏まえ既存の基準を見直し、平成23年から当市における新たな実施基準を策定し運用している。

この基準は、随時検証を行いながら、問題点を解決しつつ現在に至っており、救急隊は、的確に傷病者を観察するとともに、バイタルサインと症状を把握し、重症度・緊急度を見極めて病院選定を実施している。

今回、腹痛を訴える傷病者で消化器疾患を疑った症例が、産科及び婦人科疾患であった症例を経験したので、それぞれの判断要素を挙げて考察する。



冬の風物詩「さっぽろホワイトイルミネーション」

※さっぽろホワイトイルミネーションは、北海道札幌市の大通公園、駅前通、南1条通において毎年11月下旬から3月中旬まで開催される札幌市の冬のイベントです。なお、南前通会場は3月14日まで開催。

〈札幌市の概要〉と〈札幌市消防局の概要〉は平成29年3月号P.90を参照ください。



## 〈症例1〉

通報概要は、「32歳女性、腹痛、既往症なし」であった。救急隊到着時、傷病者は玄関から歩いて出てきた。メインストレッチャーに仰臥した途端に上腹部の激痛を訴えたので、本人希望で楽な姿勢の座位として救急車内に収容、観察を実施した。



観察結果を表1、問診結果を表2に示す。

表1 観察結果

意識	意識清明
呼吸	18回/分 (正常)
脈拍	114回/分 (橈骨動脈で充実)
血圧	133/73mmHg (普段110/60mmHg)
血中酸素飽和度	100% (RoomAir)
心電図	洞調律
腹部視診・聴診	膨隆なし、腸雑音正常
体温	37.5℃

表2 問診結果

消化器症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急隊接触3時間前、嘔吐後に発症した上腹部（胃の辺り）の間欠痛と膨満感がある。</li> <li>腹部触診すると腹部全体に圧痛がある。</li> <li>腹膜刺激症状なし。</li> <li>昨日は下腹部正中が痛かった。痛みが強くなると肛門まで広がり座れなかった。本日は下腹部痛なし。</li> <li>普段から下痢気味である。（血液の付着なし）</li> </ul>
産科・婦人科症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>月経は1週間前に正常に終了している。（不正出血なし）</li> <li>傷病者が出産歴のある産婦人科病院に相談した結果、「月経等ではないように思われる」と婦人科疾患を否定する説明を受けた。</li> <li>妊娠の可能性は否定。</li> </ul>
泌尿器症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>排尿は正常。（色調・量・回数）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>既往症なし。</li> <li>食事内容は問題なし。</li> </ul>

### （消化器疾患を疑う点）

- 嘔吐後に発症した上腹部（胃の辺り）の間欠痛と腹部膨満感。
- 腹部全体の圧痛。
- 慢性的ではあるが下痢気味。
- 37.5℃の発熱があり、消化器炎症反応の可能性。
- 傷病者が出産歴のある産婦人科病院に相談した結果、「月経等ではないように思われる」と婦人科疾患を否定された。
- 妊娠の可能性は否定。

### （婦人科疾患を疑う点）

- 腹部全体の圧痛。
- 昨日は下腹部正中の痛みがあった。痛みが強くなると肛門まで広がり座れなかった。
- 1週間前に正常に終了した月経が、実は不正出血の可能性がある。
- 女性の腹痛。

### （救急隊の判断）

観察や問診の結果、婦人科疾患を完全に否定できず考慮したが、総合的に消化器疾患を強く疑った。傷病者に救急隊の判断結果を説明したところ、上腹部痛が強いので消化器科病院での診察を希望したため、消化器科病院を選定した。診断名は子宮外妊娠破裂であった。

## 〈症例2〉

通報概要は「19歳女性、腹痛、1週間程度排便がない」であった。傷病者は玄関で腹部を押さえてうずくまっていた。メインストレッチャーに仰臥位で救急車内に収容、観察を実施した。



観察結果を表3、問診結果を表4に示す。

表3 観察結果

意識	意識清明
呼吸	30回/分 (正常)
脈拍	78回/分 (橈骨動脈で充実)
血圧	93/70mmHg (普段100/60mmHg)
血中酸素飽和度	100% (RoomAir)
腹部視診・聴診	膨隆なし、腸雑音減弱
体温	35.9℃

表4 問診結果

消化器症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急隊接触10分前、起床後発症した左側腹部から左下腹部にかけての激痛。その後は間欠痛となった。</li> <li>腹部触診で左側腹部と左下腹部に圧痛がある。</li> <li>腹膜刺激症状なし。</li> <li>救急隊接触時から持続する嘔気。</li> <li>普段から便秘気味で、昨日は少量の硬い排便があった。</li> </ul>
産科・婦人科症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>月経は約1ヶ前に正常に終了している。常に月経不順はないので、そろそろ月経が始まる時期である。（不正出血なし）</li> <li>妊娠の可能性は否定。</li> </ul>
泌尿器症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>排尿は正常。（色調・量・回数）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>既往症なし。</li> <li>食事内容は問題なし。</li> <li>腹痛後に市販の鎮痛薬を服用したが軽快しない。</li> <li>1週間前に嘔吐したが、すぐ軽快したため、病院受診はなし。</li> </ul>

#### (消化器疾患を疑う点)

- ・起床後発症した左側腹部から左下腹部にかけての激痛。  
その後は間欠痛。
- ・左側腹部と左下腹部の圧痛。
- ・持続する嘔気。
- ・腸雑音減弱
- ・普段から便秘気味で、昨日は少量の硬い排便があった。
- ・月経は約1ヶ前に正常に終了しており、常に月経不順はない。
- ・妊娠の可能性は否定。

#### (婦人科疾患を疑う点)

- ・起床後発症した左側腹部から左下腹部にかけての激痛。  
その後は間欠痛。
- ・左側腹部と左下腹部の圧痛。
- ・月経時期による下腹部痛。
- ・女性の腹痛

#### (救急隊の判断)

観察や問診の結果、泌尿器科疾患も考慮したが、婦人科疾患か消化器疾患を疑った。痛みの部位からも婦人科疾患が考えられるが、普段から便秘気味であり、昨日も少量の排便しかなく腸雑音減弱もあることから消化器疾患と判断し病院選定した。診断名は卵巣出血であった。

## 考察

#### (症例1における考察)

消化器疾患を疑った理由としては、下腹部痛発症ではあるが、接触時から上腹部痛を訴えており、腹膜刺激症状もないことから、産科・婦人科疾患との結びつきがないように考えた。腹痛が上腹部まで広がる産科・婦人科疾患としては、子宮破裂や出血による炎症反応によるものがあるが、本日から下腹部痛の消失、傷病者本人が出産歴のある産婦人科病院に相談し、婦人科疾患ではない旨説明を受けていたこともあり、産科・婦人科疾患の可能性は極めて低いと判断していた。

しかし、嘔吐後に発症した上腹部痛であったので、下腹部痛とは切り離して考える必要があった。傷病者本人が産婦人科病院に相談した原因や背景を詳しく確認したうえで、病態鑑別を行うべきであった。

#### (症例2における考察)

疼痛部位から、尿管結石等による泌尿器科疾患、大腸炎等の消化器疾患、月経痛や骨盤腹膜炎等の婦人科疾患を考えた。救急隊の判断でも上述したとおり、普段から便秘気味や腸雑音減弱があり、他の問診結果やバイタルサイン等も含めて総合的に消化器疾患と判断した。

傷病者本人に、妊娠の可能性等の産科・婦人科疾患に関

する問診をした際、すべて否定されたが、小声であったり明確性に欠けた部分があり聞き直した場面があった。父親が近くにおり、救急車にも同乗したことから、「話しにくい」ことがあったかもしれないので、救急隊が「話しやすい」環境を整えることも、病態鑑別の有効手段であることを改めて感じた。

#### (全体を通しての考察)

腹痛をきたす疾患は非常に多く、救急活動中に完全に病態鑑別するには困難な場合がある。そのため、産科・婦人科疾患と消化器疾患を鑑別するには、病態理解や詳細な情報聴取が必要である。今回の両症例では、病態理解や情報聴取に不足する点があった。

しっかりと観察や問診を行い情報収集し、救急隊として病態鑑別や病院選定を行ったうえで、判断に迷う要素があれば、病院への受け入れ確認の際に助言を求めることも考えなければならない。

女性の腹痛ならば妊娠を疑えと言われるように、産科婦人科疾患を考えて活動することが必要である。消化器疾患を意識しすぎると産科婦人科疾患を見逃す原因となる。

## 結語

- (1) 消化器疾患と産科・婦人科疾患の鑑別に苦慮した症例2例を提示した。
- (2) 男性や女性、小児や高齢者の腹痛の原因には、あらゆる疾患が考えられ消化器疾患、泌尿器疾患、循環器疾患、精神疾患等多彩であり、特に女性の場合は産科婦人科疾患もあることから病態鑑別は苦慮することが多い。
- (3) バイタルサインの確認と並行し、急性痛・慢性痛・内臓痛・体性痛・関連痛等、疼痛の発症様式や性状の確認、随伴症状の有無、視診・触診・聴診、症状に関連する情報収集を迅速的確に行い、病態を理解したうえで鑑別し病院選定を判断しなければならない。

